

本計画の概要・位置づけ

秋田市中心市街地活性化プランとは

これまでの計画の経緯・本計画の趣旨

秋田市では、平成20年7月から平成26年6月にかけて、「秋田市中心市街地活性化基本計画（第1期計画）」に基づき、中心市街地の活性化に向けた各種事業を実施し、にぎわい拠点となる「エリアなかいち」の施設整備などを実施してきました。

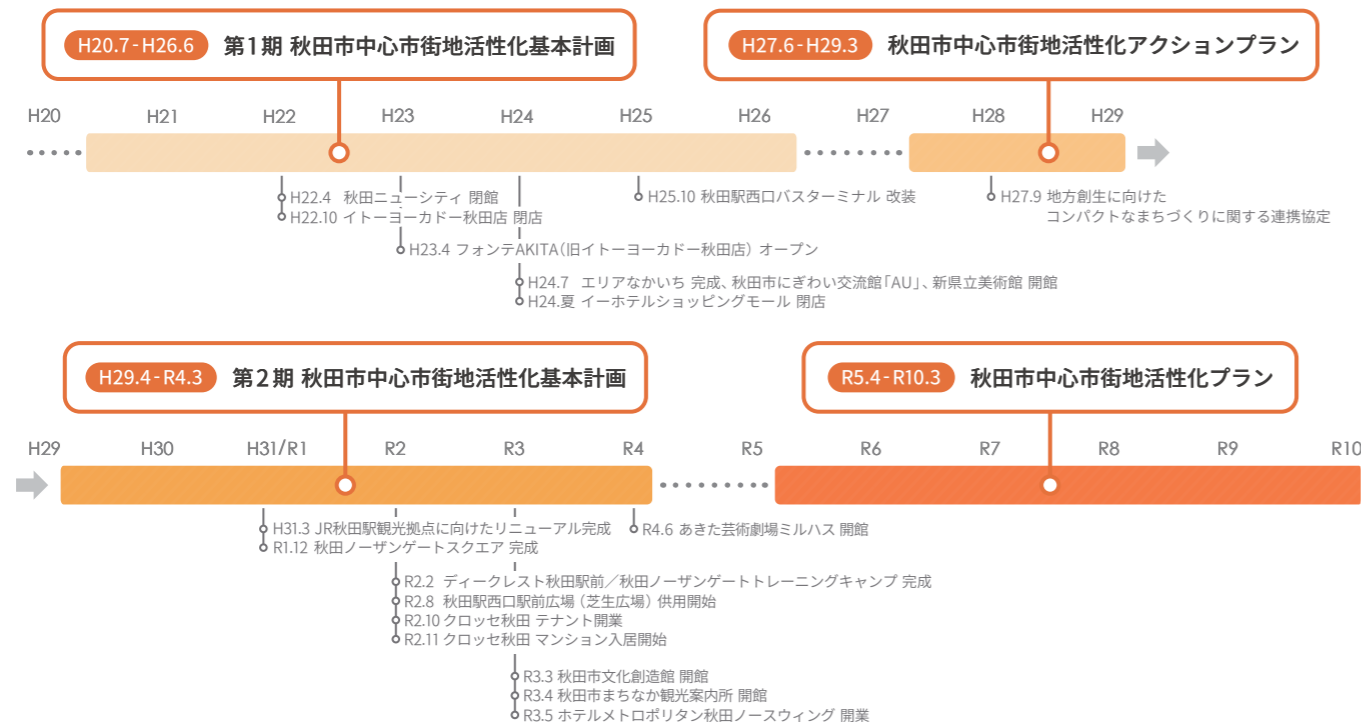
また、第2期計画（平成29年4月～令和4年3月）では、「あきた芸術劇場ミルハス」や「秋田市文化創造館」などの芸術文化ゾーンにおける整備、「秋田駅西口駅前広場（芝生広場）」や「千秋久保田町線」の整備のほか、官民の各種ソフト事業などを実施しました。

第2期計画においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、達成できなかった目標指標もありましたが、中心市街地の人口増加や地価の上昇などが見られ、官民の活性化に向けた取組による一定の成果がありました。

さらに、「あきた芸術劇場ミルハス」の開館に続き、今後、「千秋美術館の改修」や、「佐竹史料館の建て替え」など、芸術文化ゾーンを中心に新たなハード事業や、官民の連携による各種ソフト事業を実施予定です。

中心市街地に見えてきたこの好機を逃さず、課題を検証した上で、本市をイメージする「顔」、コンパクトシティの核として、今後も継続して活性化に取り組むため、「秋田市中心市街地活性化プラン」を策定しました。

今後は、本計画に基づき、中心市街地の活性化に向けて各種施策に取り組みます。



計画の流れ

計画の概要・位置づけ

対象エリア、ゾーニングの設定等

上位・関連計画との関係

中心市街地の現況

統計データ

市民ニーズ

第2期計画の目標指標の達成状況

中心市街地活性化の課題

課題1 既存施設を活かした来街者増加と回遊性の向上

課題2 居住環境の向上による住みやすいまちづくり

課題3 商店街の魅力向上と中心市街地活性化の担い手の育成

基本コンセプト・将来像(イメージ)

集い・楽しみ・住み・創る、選ばれるまち。
～城下町ルネサンスの継承～

目標・取組方針

目標1 人々が集いにぎわうまち

取組方針 各種イベントなどによるにぎわいの波及

目標2 芸術文化が香るまち

取組方針 芸術文化と身近にふれあえる環境づくり

目標3 暮らしたくなるまち

取組方針 暮らしのための環境整備

目標4 チャレンジできるまち

取組方針 商店街等の魅力向上と活性化への支援

目標5 市民がつくるまち

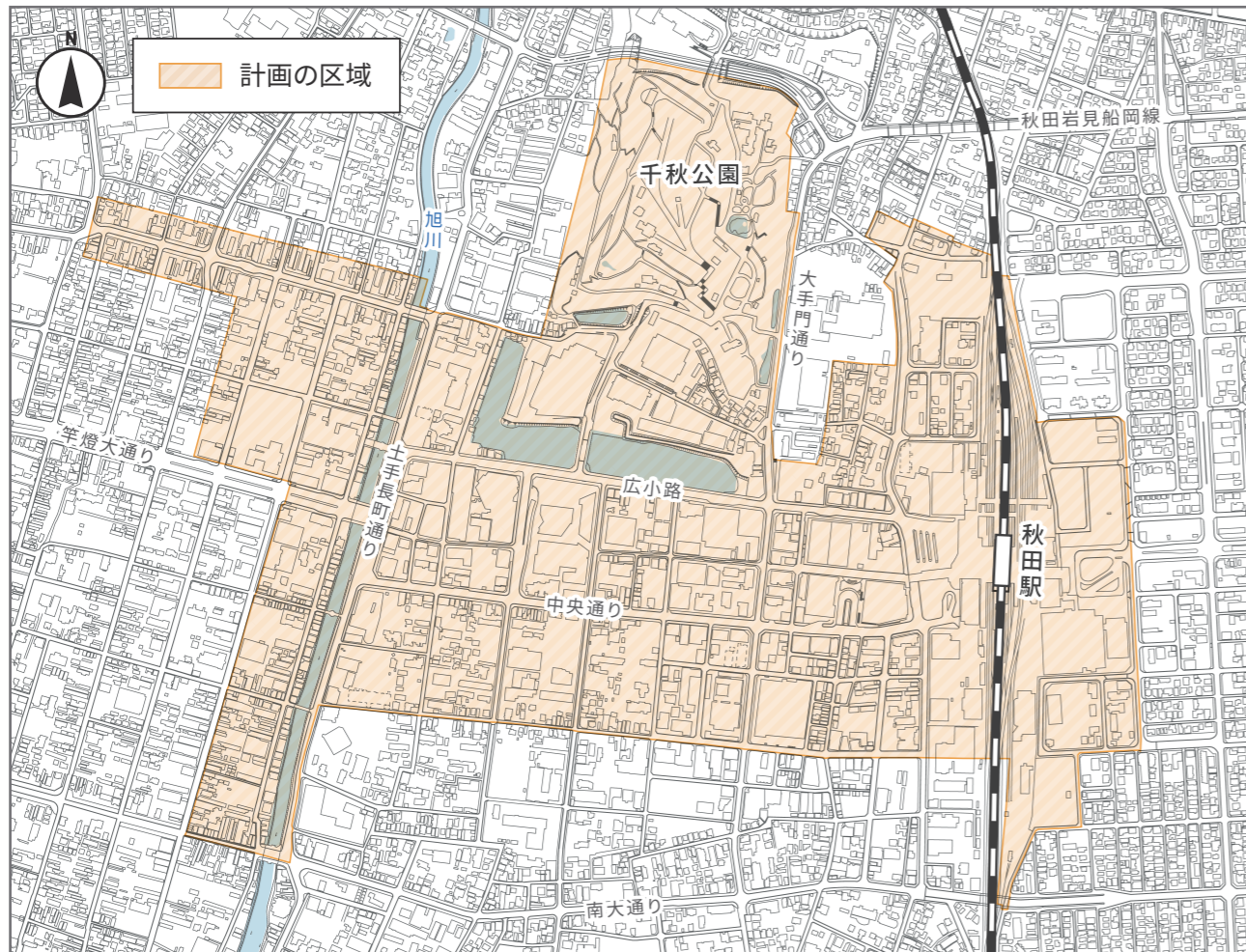
取組方針 まちに関わりまちを楽しむひとづくり

計画期間

本計画は、令和5年4月から令和10年3月までの5年間を計画期間とします。

計画の区域

本計画では、「秋田市中心市街地活性化基本計画（第2期計画）」を踏襲し、下図に示す約115haの範囲を計画の区域とします。



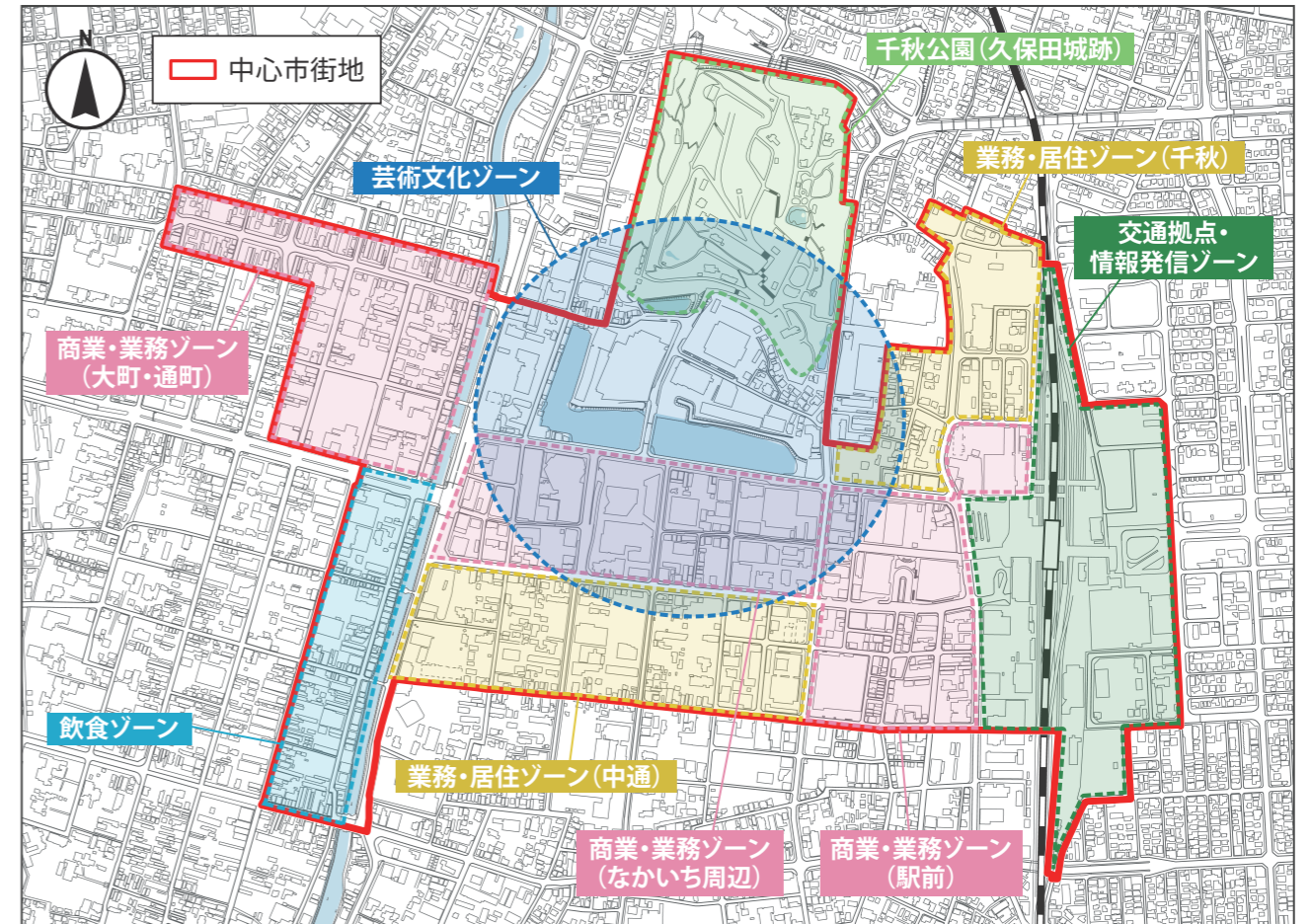
中心市街地の成り立ち

現在の中心市街地は、慶長9年（1604）に佐竹義宣が久保田城に入城してから明治4年（1871）の廃藩置県まで約270年間、政治・経済・商業・文化・教育の中心地でした。その後、近代公園として整備された千秋公園やその外堀と文化施設の立地する城跡一帯は、都市の風格を醸し出し、今日でも秋田市民の心の拠り所となっています。

中心市街地のゾーニング

ゾーニングは基本的に第2期計画を継承し、設定しました。

本計画におけるゾーニング

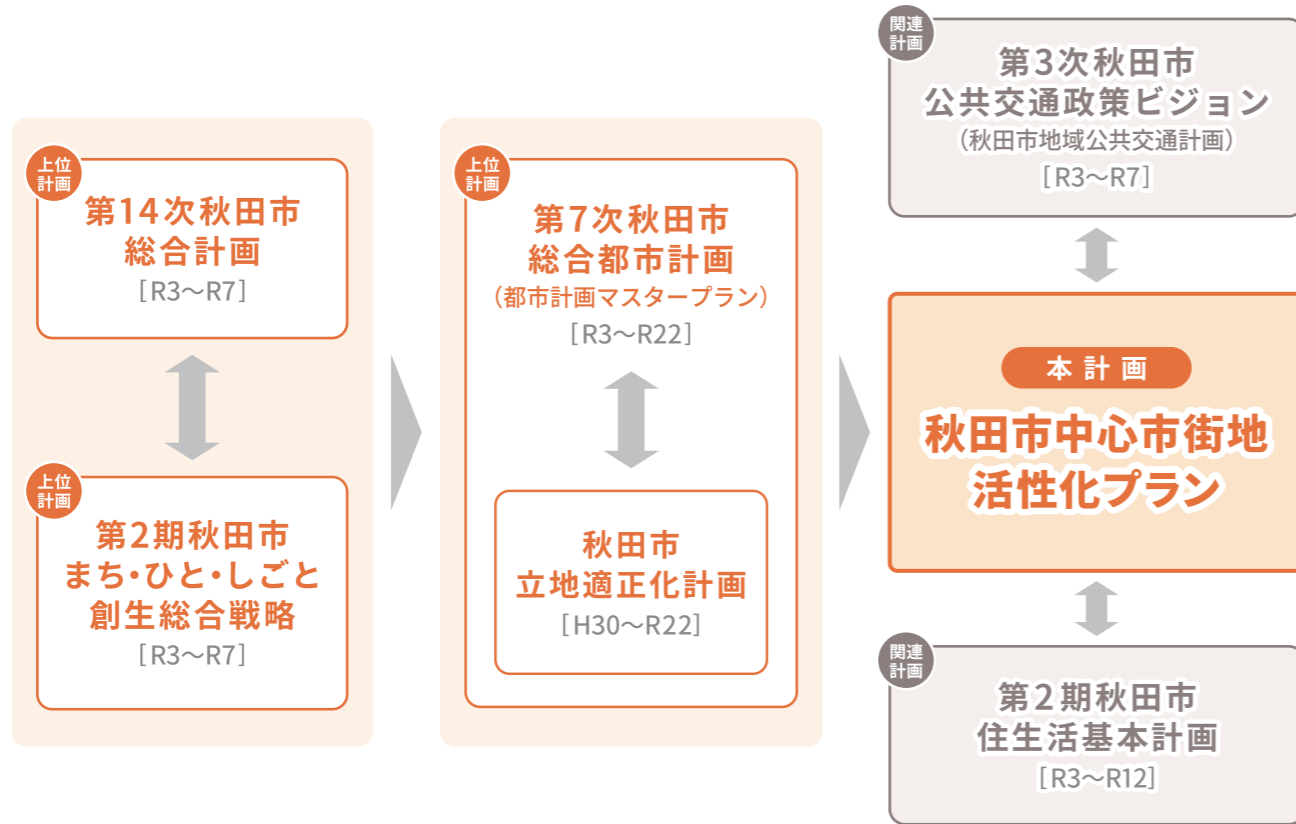


各ゾーンの考え方

ゾーン名	主な範囲	方向性
芸術文化ゾーン	千秋公園と周辺の芸術文化施設を含む一帯	芸術文化施設と周辺商業施設の連携により、多世代が交流するにぎわい拠点として活性化を図る
商業・業務ゾーン	なかいち周辺	市内外から買い物客や公共施設利用者、観光客を呼び込む
	駅前	各種イベントの実施やアクセス性改善により活性化を図る
商業・業務ゾーン	大町・通町	商店街一帯の活性化を図る
	秋田駅	中心市街地内外からの移動拠点
飲食ゾーン	川反	県内随一の繁華街として、観光客を含む様々な層が集まる
業務・居住ゾーン	中通・千秋久保田町	中心市街地の恒常的な活性化を支える居住人口の増加

上位・関連計画との関係

本計画は本市の上位・関連計画など、さまざまな計画と連携し、中心市街地の活性化を具体的に進めるための計画として位置づけます。



計画名	基本理念等
第14次 秋田市総合計画 [R3~R7]	<p>基本理念 ともに作り ともに生きる 人・まち・暮らし ～元気と豊かさを次世代に 人口減少を乗り越えて～</p> <p>将来都市像 1：豊かで活力に満ちたまち 将来都市像 2：緑あふれる環境を備えた快適なまち 将来都市像 3：健康で安全安心に暮らせるまち 将来都市像 4：家族と地域が支えあう元気なまち 将来都市像 5：人と文化をはぐくむ誇れるまち</p>
第2期秋田市 まち・ひと・しごと 創生総合戦略 [R3~R7]	<p>基本目標 1：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる 基本目標 2：魅力的で安定したしごとの場をつくる 基本目標 3：多様なつながりを築き、秋田市への新しいひとの流れをつくる 基本目標 4：高齢者が健康でいきいきと暮らせるまちづくりを進める 基本目標 5：持続可能な魅力ある地域をつくり、安全安心な暮らしを守る</p>

計画名	基本理念等
第7次秋田市 総合都市計画 (都市計画マスタープラン) [R3~R22]	<p>まちづくりの基本理念 暮らしの豊かさを次世代につむぐ 持続可能な活力ある都市 ～「市民の生活」や「地域の文化」を守り、未来へ引き継ぐまちづくり～</p> <p>まちづくり目標 1：市民生活を支える持続可能な多核集約型コンパクトシティの形成 まちづくり目標 2：環境の保全・創造による低炭素型まちづくり まちづくり目標 3：多様な資源をいかした緑豊かな都市環境の形成 まちづくり目標 4：安全・安心な暮らしを守る生活環境の形成</p>
秋田市 立地適正化計画 [H30~R22]	<p>計画の目標 多核集約型の都市構造の実現により 創出を目指す「暮らしの場」</p> <p>目標 1：高齢者が健康で、活動・活躍できる「場」の創出による、生きがいのある暮らしの実現 目標 2：子育て世代が時間効率メリットを得られる「場」の創出による、子どもとの時間を大切にできる暮らしの実現 目標 3：集い・にぎわい・交流が生まれる「場」の創出による、県都『あきた』の新たな都市型生活の実現</p>
第3次秋田市 公共交通政策 ビジョン (秋田市地域公共交通計画) [R3~R7]	<p>基本的な方針 まちの変化に柔軟に対応し、誰もが自由に移動できる、 将来にわたり持続可能な公共交通サービスの実現</p> <p>目標 1：多核集約型の都市構造を形成する公共交通ネットワークの整備 目標 2：利便性向上、バス路線運営適正化に向けた取組の推進 目標 3：持続可能な公共交通の確保に向けた仕組みづくりの推進</p>
第2期秋田市 住生活基本計画 [R3~R12]	<p>将来像 誰もが「住みたい」「住み続けたい」とおもう 秋田の住まい・まちづくり</p> <p>【目標1】 安全・安心に暮らせる住まい・まちづくり 【目標2】 誰もが快適に住み続けられる住まい・まちづくり 【目標3】 地域のなかで住み続けられる住まい・まちづくり 【目標4】 「環境立市あきた」を実現する住まい・まちづくり 【目標5】 自然と都市が調和した秋田らしい住まい・まちづくり</p>

1 本計画の概要・位置づけ